令和7年度 第2回 北浜東小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和7年5月26日（月）13時30分から15時36分まで
- 2 開催場所 北浜東小学校 特別室
- 3 出席委員 倉橋 芳久、本間 規子、生熊 義憲、今田 栄之助、
久保田 静香、神谷 智里、羽柴 ちひろ
- 4 欠席委員 なし
- 5 学 校 中島 利美（校長）、佐野 教代（教頭）、
菅沼 秀明（CS担当教員）、入手 佑香（CSディレクター）
- 6 教育委員会 加藤 大輔（教育総務課）
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 入手 佑香（CSディレクター）
- 9 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、神谷委員と久保田委員が、本日の議長を務めることを申し出、全員意義なくこれを承認した。

10 協議事項

- (1) 今年度の学校運営協議会自己目標について
- (2) 授業から見える子供の実態（参観の視点をもとに）
- (3) 支援策の具体化について

11 会議記録

司会の菅沼から、委員総数7人のうち7人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 今年度の自己目標について

議長の指示により、教頭から、本年度の学校運営協議会自己目標について説明があり、委員からは、以下の発言があった。

- ・ 自己肯定感を高めるとはどうことなのか。また、自己肯定感を高める取り組みへの助言とは何をすればよいのか。（今田委員）
- ・ 東小の子供たちは、自分に自信がない子供が多い。そこで、みんなから褒めてもらったり認めてもらったりすることで、「自分にもいいところはあるんだ」「自分の良いところに自信を持っていいんだ」という気持ちを育みたい。
(教頭)
- ・ 自分の思いや考えを持ち、相手に伝えようとする自己表現力が育つような取り組みをしていく中で、効果的な取り組みを知っていたら教えていただきたい。（教頭）
- ・ 自分を高めたいと思っても、自信が持てないことは誰にでもある。そのため、活動を通じて「できるんだ」「やれるんだ」という認識を持つことが大切になる。（生熊委員）

- ・ 様々な方と関わる中で、自分の思いを表現することで子供たちに自分の考えを伝える力を身に付けてもらいたいという意見が多く聞かれた。自己肯定感を高めるためには、自分に自信を持つことが重要であり、それによって次のステップに進めるのではないか。(倉橋委員)
- ・ 東小の子供たちは、すでに優しい子が多く、他者を思いやる心がしっかり育っていると感じる。他者を思いやる心の育成よりも、自己表現力を重視した項目を目標に掲げた方が、子供たちにとってより重要なテーマとなるのではないか。(倉橋委員)
- ・ 自己表現について、昨年度、子供たちが自分から自己表現する場を設けたりしたことで、少しずつ成果が表れていると思う。今年度はさらに一歩進めてもらいたい。(本間委員)
- ・ いじめが起きることは他者を思いやる心から外れた行為であるため、自己目標の中に他者を思いやる心の育成は含めておいてよいのではないか。
(生熊委員)

(2) 授業から見える子供の実態(参観の視点をもとに)

授業を参観した感想、視点について良い点、改善すべき点について委員からは、以下の発言があった。

- ・ 1年生の子供たちがとても楽しそうで、元気いっぱい活動している様子を見られて嬉しかった。(神谷委員)
- ・ 高学年になると、自分で考え、何をすべきか理解している様子が見られた。先生方の努力も伝わってきた。(神谷委員)
- ・ 体育の授業のティーボールは、点数を取ったり、攻撃を防いだりする競技だったため、友達に対して少し強い口調が気になる場面があった。(神谷委員)
- ・ 新しいことを学ぶ授業では、先生が板書しながら話す場面があり、まとめや考察の時間には、友達同士で話し合ったり、手を挙げて発表したりする場面が見られた。(久保田委員)
- ・ 1年生の国語の授業の終わりに、先生がノートを集める場面では、算数の「なんばんめ」で学習した順序や位置の表し方を応用している様子を見ることができた。(久保田委員)
- ・ 子供たちが非常に積極的に授業に参加していると感じられた。
(羽柴委員)
- ・ 話を聞くことやノートに文字を書くことに集中していた。特に高学年になると、「話し合う」「聞く」「調べる」の切り替えができていた。(羽柴委員)
- ・ 発表している子供たちは、一度でうまく伝えられなかった場合には、伝え方を変え、より伝わるように工夫をしていた。(羽柴委員)
- ・ 5年生の社会科の授業では、各自の個性が表れる新聞を作成していた。子供たちの個性を大切にしようとする思いを感じた。(生熊委員)
- ・ 各先生の指導や雰囲気によって、教室の空気や子供たちの様子が変わることを実感した。(今田委員)

- ・ 何人もの子供が発言していく中で、的確な考えをもつ子供に教師が意図的に発言の機会を与えていた。また、みんなが理解できているかどうか確認していた。先生が子供を指名するのではなく、みんなに声を出させる授業はとても面白いと感じた。(今田委員)
- ・ ノートは丁寧に書かれていたが、背中が丸くなったり、書くときの姿勢が悪かったりする子が気になった。(今田委員)
- ・ 「勉強」「運動」が得意な子、苦手な子もいるため、下を向いてる子や手を挙げない子、発言しない子に声をかけてあげるような授業であってほしい。(今田委員)
- ・ 3年生の授業では、自分の書いたノートを友達と意見交換したり、声の大きさにも気を配ったりすることができていた。(本間委員)
- ・ 図工作品の掲示物には、題名や名前だけでなく、工夫した点や友達の作品に対する感想も書かれていた。図工の授業を通じて自己表現ができていると感じた。(本間委員)
- ・ 物を落とす子供が気になった。(本間委員)
- ・ 授業が始まる前に黙想を行っていた。黙想をすることで、集中して授業に臨むことができていた。気持ちの切り替えにもなり、とても良い取り組みだと思う。(倉橋委員)
- ・ 子供たちが安心して意見が言える雰囲気、どのクラスにも感じられた。(倉橋委員)
- ・ 姿勢が悪い子供が気になった。姿勢が悪いと、集中力が低下したり、視力が悪くなったりすることもある。正しい姿勢で学習することで、疲れにくくなり、集中して勉強を進めることができる。(倉橋委員)
- ・ 発言できる子は積極的に発言していた。一方で、発言できない子は他の子の意見を聞いているだけの状態になってしまっていた。(生熊委員)
- ・ 4年生の理科の授業では、他の子が話した内容を理解し、それを別の子に伝えようとする様子が見られた。先生が指名するのではなく、子供たち自身が自ら進んで説明できるという環境が整っていると感じた。(神谷委員)
- ・ 最近、順位や勝敗をつけない運動会が増えてきていることについて、委員の皆さまの御意見を聞いてみたい。(倉橋委員)
- ・ 順位がなくなることで、実力差に関係なく個人の頑張りを評価することができる。一方で、競争することの大切さや、その感覚を学ぶことも重要だと思う。(神谷委員)
- ・ 失敗や敗北からの学びを次に生かすことで、より強くなり、成長や向上につながる重要な経験になると思う。(久保田委員)
- ・ 順位をつけることで、競争心やモチベーションを高めることができる。(羽柴委員)
- ・ 子供たちに順位付けを理解させることは難しい。それぞれの個性や能力の差があることを伝えることで、子供たちが自分自身の良さや特性を認識して自己肯定感を持てるようになるのではないかと。(生熊委員)

- ・ 順位は付けるべきである。何のために頑張るのかを明確にし、目標意識を持たせることができる。(今田委員)
- ・ 結果だけに焦点を当てるのではなく、目標に向かって努力している過程を褒めることを大事にしている。成長とともに自然と競争心や向上心も育まれる。(本間委員)

(3) 支援策の具体化について

議長の指示により、教頭から、別紙資料に基づき、支援策の具体化について説明があり、以下の発言があった。

- ・ 4年生の総合的な学習の時間の中で、お年寄りとの交流は善地にサロンがあり、主にコミュニティセンターで活動していると思う。(倉橋委員)
- ・ 子供たちが、校外学習として地域に出掛け、お年寄りの方と一緒に昔遊びなどの活動を行うことは、サロンの方々も喜んでくれると思う。(倉橋委員)
- ・ 障がいのある方との交流について、天竜厚生会が出張してくれる福祉体験学習がある。(久保田委員)
- ・ 天竜厚生会の福祉体験学習は、車いす体験や白杖の使い方などは教えてもらえるが、障がいを持っている人との関わりは難しい。(教頭)
- ・ 一昨年、義足のパラリンピック選手が講演会をしてくれた。さまざまな活動を通じて活躍しているパラアスリートの方に直接講演していただく方が、子供たちにはより理解しやすいと思う。(神谷委員)

その他報告事項等

司会から、第3回学校運営協議会は、12月15日(月)午後2時から特別室で開催する旨の報告があった。